

序

河野武司先生は、二〇二四年三月末日をもって慶應義塾大学法学部を定年退職される。

先生は、一九七七年四月に慶應義塾大学法学部政治学科に入学後、八一年三月に同卒業、八一年四月に慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程に入学、八三年三月に同修了後、八三年に同博士課程に入学、八六年三月に同課程を単位取得満期退学された。博士課程在学中の一九八四年四月には、杏林大学社会科学部に助手として奉職され、早くから大学教員として教壇に立たれた。一九八八年四月に同専任講師、九二年四月に同助教授、二〇〇〇年四月に同教授に昇任後、二〇〇四年四月に慶應義塾大学法学部教授に着任された。本塾では二〇年の長きに渡り法学部・法学研究科そして慶應義塾の発展にご貢献いただいた。

法学部政治学科では、ご専門である「現代政治理論」を中心に、「政治学基礎」や「政治理論基礎」などの必修科目を長年担当され、多くの学生たちが河野先生の基礎科目で政治学の基礎を学んだ。その他にも、法学部では「演習」、通信教育部では「政治学」、「政治理論」、「政治過程論」など数多くの政治学の授業を開講されており、通学課程・通信課程を問わず、学生の教育に熱心に取り組んでこられた。

また、義塾の学内行政への貢献も大であった。着任後間もない二〇〇五年一月から〇七年九月まで慶應義塾大学通信教育学生部副部长、〇七年一月から〇九年九月、一二年一月から一五年九月まで同通信教育部副部长をお務めになり、通信教育部の運営に深く携わられた。また、二〇一五年一月から一六年三月まで慶應義塾

大学教職課程センター副所長、一六年四月から二〇年九月まで同所長をお務めになるなど、学部の枠を超えて義塾全体の発展に大きく貢献された。

研究面では、河野先生は、法学部長も務められた故堀江湛名誉教授の下で学ばれ、投票行動や選挙制度、さらには政治的コミュニケーションなどを中心とした実証政治理論を研究・教育されてきた。著書は共著として、『情報とデモクラシー』（学陽書房、一九八三年）、『危機とデモクラシー』（学陽書房、一九八五年）、『世界の政治システム』（芦書房、一九八七年）、『政策決定の理論』（東海大学出版会、一九九〇年）、『政治過程の計量分析』（芦書房、一九九一年）、『国家の解剖学』（日本評論社、一九九四年）、『選挙と投票行動の理論』（東海大学出版会、一九九七年）、『選挙制度と政党』（信山社、二〇〇三年）、『日本における有権者意識の動態』（慶應義塾大学出版会、二〇〇五年）、『慶應の政治学 政治・社会』（慶應義塾大学出版会、二〇〇八年）、*Building Democracies: Ukraine and Japan* (Phoenix, 2016)、『公共選択論』（勁草書房、二〇二二年）など、共編著として『九〇年代初頭の政治潮流と選挙』（評論社、一九九八年）、『利益誘導政治』（芦書房、二〇〇四年）、『政治改革とシヴィル・ソサイエティ』（慶應義塾大学出版会、二〇〇六年）、『ニュース報道と市民の対外意識』（慶應義塾大学出版会、二〇〇八年）を著され、多彩なテーマについて研究業績を出されてきた。政治理論部門の同僚である築山宏樹先生によれば、とりわけ新聞やテレビの報道内容を定量化し、その効果を分析することを試みた河野先生の実証的なマスメディア研究は、現在でも当該分野で頻繁に引用・参照される必読文献となっている。

学会活動では、日本選挙学会で一九九六年五月から二〇〇四年五月まで八年間事務局長として事務をまとめられた後、二〇一七年五月から二〇一九年五月には同理事長をお務めになられた。その他の学会でも、日本政治学会の常任理事、公共選択学会の理事などの要職に就き、学界への貢献も大きいものがあつた。また、二〇一四年一〇月から現在まで、日本学術会議連携会員も務められている。

最後に、個人的なことを申し上げさせていただくと、私はCOEおよびGCCOEのプロジェクトで河野先生とご一緒させていただき、センターの運営やシンポジウムの企画に際して本当にいろいろご指導いただいた。しかもシンポジウムでは、分野を超えての学術的対話が実現し、先生のご研究についても多くを学ぶことができ、これは私にとつてかけがえのない宝物となっている。改めて感謝を申し上げるとともに、ご退職後も引き続きご教示いただければと願っている。

長年にわたる先生の法学部および義塾へのご貢献に敬意と感謝を表するとともに、ますますのご健勝とご活躍を心から祈念し、本号を進呈させていただきたい。

二〇二四年二月

法学部長 堤 林 剣